

第2回中間報告書

2025年11月10日~2025年12月12日

秋学期第7週~第12週/Autumn Term, week7-week11

国際ロータリー第2710地区

2025-2026地区補助金奨学生

阿部 吉晟

1. 報告書提出日：2026年2月27日

2. 基本情報

氏名：阿部吉晟

派遣クラブ・カウンセラー：広島西ロータリークラブ 石山 成之 様

教育機関：London School of Economics and Political Science (LSE)

専攻分野：MSc Development Management (Applied Development Economics)

3. 学業面での成果

第一回報告に引き続き、秋学期の学業成果を報告させていただきます。

【DV410】 Research Design and Dissertation International Development 2025/26

：国際開発における研究デザインおよび修士論文の書き方

- 修士論文執筆にあたり、定性分析・定量分析・ケーススタディなど、それぞれの研究方法に関して理解を深めております。年明けに修士論文の仮テーマを提出するので、研究方法の適切さや実現可能性を考慮したうえで、研究を進めてまいります。

【DV443】 Development Management Consultancy Project 2025/26

：開発現場におけるコンサルタントプロジェクト

- Fairtrade International とは、定期的な会議を通じて、業務範囲(ToR, 業務取扱要項)の策定から始まり、入手したデータの整理・分析、分析結果の共有、再分析を行っています。同時に、先行研究を通し、学術的な理論や本プロジェクトならではの唯一性を探索しています。

【DV469】 The Political Economy of Development 2025/26

：開発分野における政治経済

- 最終週にプレゼンテーションを行いました。「開発の成功と失敗の分析」というテーマで、なぜ一方は発展するのに他方は発展しないのかを、地理・制度・文化・政治・経済・歴史など、様々な要因を包括的に検討しました。さらに、「成功した開発政策は再現可

能か」というサブテーマに対し、条件が非常に似通っている二ヶ国を例にとったうえで、些細なことに思われる小さな違いこそが政策の再現性を難しくするという結論を導きました。授業の総まとめとなる最終週にプレゼンテーションを担当することになったので、テーマとしても難解でしたが、開発政策への理解を深めることができ、大きな収穫となりました。

【DV490】Economic Development Policy I : Applied Policy Analysis for Macroeconomic Development

：開発経済政策1：開発におけるマクロ経済学の応用的政策分析

- ▶ 学期前半では経済成長の理論について理解を深め、学期後半では不平等や金融危機、援助の有効性などのトピックを扱いました。特に興味深かったのは、援助が良い結果だけでなく、むしろ悪い結果をもたらしてしまうこともあるという事実です。例えば、ウガンダの事例では、ある地域では乳児死亡率などの健康指標が改善されたものの、ある地域ではNGOの提示する高い給料がきっかけで政府の医療従事者の引き抜きが起り、医療が行き渡らなくなる事態が起りました。さらに、高い賃金は教員の引き抜きも誘発し、学校が閉鎖されるなど教育分野にも負の影響が波及していました。このように、開発政策が好ましい影響だけではなく、時として負の影響をもたらしてしまうこともあると知り、将来、開発に携わる身として新たな視点を得ることができました。

【DV494】Foundations of Applied Econometrics for Economic Development 2025/26

：開発経済学における応用計量経済学の基礎

- ▶ 学期前半では研究手法について理解を深め、学期後半ではその研究手法を用いてどのような研究が行われてきたのかを、論文を通して学びました。ノーベル経済学賞を受賞している学者や本校の卒業生にあたる著名な研究者の論文を読むことは、非常に難しく多くの労力を伴いますが、授業やプレゼンテーションを通して理解できたときには、研究の真髄に触れることができたことを実感し、やりがいを感じられる瞬間でもあります。

4. 今後の課題・目標

冬休みは息抜きをしつつ、年明けの試験に向けて準備を進めます。また、冬学期には、Fairtrade International とのプロジェクトの最終レポートを作成したり、修士論文の研究計画を教授と相談したり、自身の学びを発揮する機会が多くあります。引き続き、授業や学外でも学びを深めてまいります。

5. その他特記事項

第2回報告書では秋学期の後半について報告させていただきました。プレゼンテーションの準備や年明けの試験など、秋学期前半の学びを基礎に学問や開発現場への理解を深める有意義な時間となりました。冬学期も変わらず心身ともに健康な状態で、学問に向き合いたいと思います。



◁ ヨーロッパでは11月初旬からクリスマスで賑わい、街全体が暖かい雰囲気です。

▷ 学期が終了したタイミングでコースメイトともクリスマスをお祝いしました。美味しい食事と共に秋学期の疲れを吹き飛ばします。



◁ 冬休みには友人とイギリス南部の「Hartfield」(ハートフィールド)という小さな町へドライブをしました。「くまのプーさん」のモデルと言われており、たくさんのグッズや展示がありました。